

2019 年度版

強化戦略プラン

第一部

公益社団法人日本カーリング協会

強化責任者： 柳 等

連絡先： 03-5843-0371

E-mail： yanagi@curling.or.jp

強化戦略プラン 第一部（競技団体共通）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和元年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
 大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

■ 共通理念

スポーツ基本法、第2期スポーツ基本計画及び競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）を踏まえ、今後のオリンピック・パラリンピック競技大会等で日本が優れた成績を収めるだけでなく、スポーツ庁をはじめ、日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラリンピック委員会（JPC）、中央競技団体（NF）、日本スポーツ振興センター（JSC）等と連携・協働し、強力で持続可能な支援体制を構築し継承していくことを目指していく。

■ 行動指針

強化戦略プラン実施における行動指針

1. 事業活動

強化戦略プランの実効化及び目標達成に向けて行動し、必要に応じて適切な情報開示に努める。

2. 法令遵守

活動の実施及び活動費の使用に当たり、法令やその他諸規程を遵守するとともに、体制を整備し、高い倫理観を持って行動する。

3. 公正な会計

透明性ある事業運営として、財務、経理を適正に行い、公正な会計原則に則って事業を実施する。

4. 倫理

社会倫理に即し、本事業並びに関連する組織及び個人の名誉・信用を損なわないよう行動する。強化戦略プラン推進に係る活動や決定事項に対して、私的な問題や利害関係を持ち込まない。

5. 情報管理

強化戦略プランに係る情報については、個人情報等に十分留意し、厳重に管理し適切に取り扱う。目的に反する使用や第三者への漏洩は行なわない。

* * *

上記の行動指針に基づき、強化活動を遂行する。

署名（統括責任者）公益社団法人日本カーリング協会 会長 貝森 輝幸

競技団体名：公益社団法人日本カーリング協会

概要	住所： 東京都新宿区霞ヶ丘 4 番 2 号 504 電話： 03-5843-0371 FAX： 03-5843-0372 URL： http://www.curling.or.jp/ 会長： 貝森輝幸 事務局長： 小高正嗣
理念	ビジョン： 「カーリング精神 the Spirit of Curling」を社会に浸透させ、国民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。 ミッション： 普及 「カーリング精神 the Spirit of Curling」を生活に取り入れ、人々が幸福感を得られる社会を作る。強化 オリンピックでの金メダル獲得を目指し、日本代表が国際的に活躍することによって「カーリング精神 the Spirit of Curling」を体現し、夢や希望、感動を人々に与える。 バリュー： 善きスポーツマンシップ good sportsmanship, 思いやりの気持ち kindly feeling, 尊敬に値する行為 honourable conduct
実績	【主要国際大会結果】 女子カーリング 第 23 回オリンピック冬季競技大会（2018／平昌）3 位入賞（銅メダル獲得） 第 22 回オリンピック冬季競技大会（2014／ソチ）5 位入賞 2019 年世界女子カーリング選手権大会 4 位入賞 2018 年世界女子カーリング選手権大会 10 位 男子カーリング 第 23 回オリンピック冬季競技大会（2018／平昌）8 位入賞 2019 年世界男子カーリング選手権大会 4 位入賞 2018 年世界男子カーリング選手権大会 11 位 ミックスダブルスカーリング 2019 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会 5 位入賞 2018 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会 5 位入賞
目標 （現状可能な目標） （4 年・8 年）	【2020 年東京大会（夏季）／2022 年北京大会（冬季）】 女子カーリング 金メダル獲得 男子カーリング メダル獲得 ミックスダブルスカーリング メダル獲得 【2024 年パリ大会（夏季）／2026 年大会（冬季）】 女子カーリング 金メダル獲得 男子カーリング メダル獲得 ミックスダブルス メダル獲得
強化責任者	【強化責任者】 柳 等（常任理事・強化委員長） 【強化単位責任者】 柳 等（常任理事・強化委員長）
	【2020 年東京大会（夏季）／2022 年北京大会（冬季）まで】

<p>財務計画</p>	<p>2019 年度予算において, 同上 70,000,000 80,000,000 合計 150,000,000 2020 年度予算において, 同上 77,000,000 80,000,000 合計 155,000,000 2021 年度予算において, 同上 82,000,000 80,000,000 合計 162,000,000 (単位円) スポンサーの獲得, 放映権料等の増加に努める. 世界選手権大会, オリンピックでの上位入賞し, 安定した上位成績を残す.</p> <p>【2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季) まで】 2022 年度予算において, 同上 90,000,000 80,000,000 合計 170,000,000 (単位円) それ以降 2022 年度の予算を維持.</p>
<p>強化戦略 プランの承認 の流れと共有 範囲 (新規)</p>	<p>強化委員会にて強化戦略プランを作成. 7 月の理事会にて承認.</p>

強化戦略プラン

第二部

男子カーリング

バージョン 2.0

2019/06/30

強化責任者： 柳 等

連絡先： 03-5843-0371

E-mail： yanagi@curling.or.jp

強化戦略プラン 第二部（種目又は種別、強化単位）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
2.0	令和元年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

- 軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

1. 現状と目標	4
1-1：現状	4
1-1-1：背景と現状の競技力	4
1-1-2：優位性と課題	4
1-2： 目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	4
1-2-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）	4
1-2-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）	6
2. 戦略方針	7
2-1：競技力強化のための戦略.....	7
2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略.....	7
2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略	7
2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ	8
2-3：強化拠点	8
2-4：強化体制等の整備	8
2-4-1：日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考	8
2-4-2：アンチ・ドーピングに関する取り組み.....	8
2-4-3：人材育成・確保.....	9
2-4-4：強化戦略プラン推進体制	9
3. モニタリング及び検証・評価	9
4. 別添資料	10

1. 現状と目標

1-1: 現状

1-1-1: 背景と現状の競技力

日本男子にとって 20 年ぶりの 2018 年平昌大会には SC 軽井沢クラブが出場し、8 位入賞した。2019 年世界男子カーリング選手権大会にはコンサドーレが出場し、4 位入賞を果たした。2013 年から 2018 年平昌大会おろドカーリングツアー大会に参戦し、国際競技力向上を図った。現在のコンサドーレも同様の状況にある。他の男子チームの多くは仕事の都合や金銭的な支援が受けられないため、海外強化合宿を実施することができないのが現状である。2022 年北京大会に向けては、SC 軽井沢クラブの元メンバーが新チームで活動を開始したので、今後は国内で複数チームが切磋琢磨して、相互に競技力を高め合いことが期待される。

日本男子の世界ランキングは 6 位である(令和元年 6 月現在)。上位の国は、順にスウェーデン、カナダ、アメリカ、スイス、スコットランド(イギリス)である。日本の次はノルウェー、韓国となっている。ワールドカーリングツアーのランキング(世界チームランキング)はコンサドーレが 19 位で、そのほかのチームは 50 位以内にはない。

1-1-2: 優位性と課題

日本カーリングの強みは、国内に公的施設の通年型カーリング専用リンクが四か所(軽井沢町、北見市、青森市、札幌市)にあることである。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

一方、国際競技力向上を図るために海外強化合宿を実施して北米や欧州でのワールドカーリングツアー大会に参戦する必要がある。強化チームであっても、仕事の都合や金銭的な問題で海外強化合宿を限定的にしか実施できない場合もある。男子カーリングには、金銭的な支援を受けられる企業チームや地域クラブチームがほとんどなく、競技に専念できる環境にある選手が少ないことや強化チームをサポートする体制が十分に整備されていないのが問題となっている。また、ジュニアや大学の強化チームも含めてより多くの男子チームが継続的に海外強化合宿を実施して、国際競技力向上を図ることができる環境を整えていくこととともに、強化スタッフの確保し育成していくことが課題となっている。

1-2: 目標(現状可能な目標)とマイルストーン

1-2-1: 2020 年東京大会(夏季) / 2022 年北京大会(冬季)

	目標(現状可能な目標)
2020 年 2022 年	メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2021	2022 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2021-22 世界チームランキング 15 位以内 1 チーム, 20 位以内 1 チーム 2021 年パンフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2020	2021 年世界男子カーリング選手権大会メダル獲得 2020-21 世界チームランキング 18 位以内 1 チーム, 25 位以内 1 チーム

	2020年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内
2019	2020年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2019-20年世界チームランキング 20位以内 1チーム, 50位以内 1チーム 2019年パシフィックアジアカーリング選手権大会優勝

上記の目標・マイルストーンを設定した理由や根拠

2019年世界男子カーリング選手権大会で4位入賞したため、2022年北京大会はメダル獲得を目標とする。

近年のオリンピックにおけるメダル獲得国は、直近2年の世界選手権大会でメダルを獲得している傾向にある。そこで、2020年世界選手権大会プレーオフ進出、2021年メダル獲得と、2022年北京大会に向けてステップアップする目標を設定した。

さらに、オリンピック、世界選手権大会のメダル獲得国は、世界チームランキングの上位チームの国である。ランキング15位以内のチームは、高いレベルで安定したパフォーマンスを発揮し、メダルを獲得する可能性が高いことを示している。日本の男子チームが複数上位にランクされるようになると、オリンピック、世界選手権大会、パシフィックアジアカーリング選手権大会で上位成績を収める可能性が増大する。

1-2-2 : 2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季)

	目標(現状可能な目標)
2024 年 2026 年	メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2025	2026 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2025-26 世界チームランキング 12 位以内 1 チーム, 18 位以内 2 チーム 2025 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2024	2025 年世界男子カーリング選手権大会メダル獲得 2024-25 世界チームランキング 12 位以内 1 チーム, 20 位以内 2 チーム 2024 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 以内
2023	2024 年世界男子カーリング選手権大会 4 位以内 2023-24 世界チームランキング 15 位以内 1 チーム, 20 位以内 2 チーム 2023 パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2022	2023 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2023 年ユニバーシアード冬季競技大会メダル獲得
2021	2022 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2022 世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出
2020	2021 年世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出 2021 年ユニバーシアード冬季競技大会プレーオフ進出 2020 年世界ジュニア B 選手権大会 3 位以内
2019	2020 年世界ジュニアカーリング選手権大会出場 2019 年世界ジュニア B 選手権大会 3 位以内

上記の目標・マイルトーンを設定した理由や根拠

2026 年大会ではメダル獲得を目標とする。
2022 年北京大会のある 2021 年度までは、次世代ジュニア強化チームを想定した。世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出、ユニバーシアード冬季競技大会メダル獲得と順に国際経験を積ませる。それ以降はワールドカーリングツアー大会に参戦して 2026 年大会に向けて強化を図る。

2. 戦略方針

2-1: 競技力強化のための戦略

2-1-1: 2020年東京大会(夏季) / 2022年北京大会(冬季)の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① 海外強化合宿での国際試合経験の積み上げ
- ② 主要国際大会でのストーン、アイスに関する情報収集・分析, 強豪国チームの戦略情報収集・分析
- ③ 主要国際大会でのコンディション維持

戦略

国際競技力向上のための強化方針は、国内有力チームを海外強化合宿に派遣して、海外強豪チームとの試合を経験させることである。スウェーデン、カナダ、スイス、カナダ、スコットランドなどの強豪国のチームは、シーズン中にワールドカーリングツアーなどの国際大会に10~15回出場している。世界チームランキングで15位以内になると、世界選手権大会やオリンピックでのメダルの可能性が高くなる傾向にある。日本の強化チームもそれと同等数の国際大会に出場し、国際経験を積む必要がある。世界チームランキングで上位に位置するメリットは強化の好循環に入れることだ。つまり、WCT グランドスラム大会に招待されるようになり、強豪チームとの対戦も増加するうえ、ツアーポイントも高くなるのである。こうしたチームを国内に複数作ることが目標の一つである。

カーリングの競技力の要素には、アイスの読みとストーンのマネジメントがある。選手個人のスキル、チームのパフォーマンスはこれらの要素と深く関係している。世界カーリング連盟 WCF 主催の主要国際大会については、アイスやストーンの情報をも日本カーリング協会の強化委員会が管理し、強化チーム間で共有する。また、大会でのデータ収集は強化スタッフがサポートし、チームに提供する。

主要国際大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が必要である。特に世界選手権大会は予選の7日間一日2試合、さらにプレーオフに進むと9日間にもおよぶ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、単に選手の体力の向上だけでは不十分で、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が求められる。

ところで、2022年北京大会までの、日本カーリング選手権大会および日本代表選考の方法をすでに決定した。オリンピックや世界選手権大会などの主要国際大会に安定したパフォーマンスを発揮できるチームを日本代表に選出できるようにした。日本カーリング選手権大会は、世界カーリング選手権大会とパシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表を決定する大会であるので、強化チームや世界チームランキング50位以内の最上位チームが出場できる条件を整備した。さらに、海外の優秀なアイス技術者を大会時に招聘して、主要な国際大会と同等な条件のストーンやアイスを準備することとなった。

2-1-2: 2024年パリ大会(夏季) / 2026年大会(冬季)の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① ジュニアおよび学生選手の海外強化合宿派遣
- ② ジュニア国内合同強化合宿
- ③ 国内ジュニア大会の創設

戦略

重点強化対象となったジュニア強化選手、大学強化選手を海外強化合宿に派遣し、ワールドジュニアカーリングツアー(WJCT)大会に参戦させる。国内とは異なる環境の大会で、様々なタイプのチームと対戦する機会を

増やす。世界の同世代のチームとの試合経験をより多く積ませる。

ジュニア強化選手、大学強化選手を対象とした国内合同強化合宿は従来通り継続して実施する。実戦形式の練習のほか、チームビルディング、アンチ・ドーピング、コンプライアンス・ガバナンス、食事・栄養、心理、コンディショニング、メディアトレーニング等の研修を行う。カナダの元オリンピック代表をコーチとして招聘して、指導を受ける。ジュニア専任コーチが「カーリング精神」に沿ってジュニア強化選手、大学強化選手の指導に当たり、国際大会で活躍できるアスリートに育成することを目指す。

2-2： ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

別添 1 に記載

2-3： 強化拠点

1) 強化拠点の必要性と活動方針

通年型カーリング専用リンクはシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できる強化拠点として必要である。国際大会で安定したパフォーマンス発揮するために、基礎練習を反復して基本動作の技術を習得する。

2) 主な活動場所

具体的な活動場所		主に使用するカテゴリー
拠点・施設名	所在地(都道府県・市町村)	
軽井沢アイスパーク	長野県北佐久郡軽井沢町	全て
アドヴィックス常呂カーリングホール	北海道北見市常呂町	全て
みちぎんどリームスタジアム	青森県青森市合浦	全て
どうぎんカーリングスタジアム	北海道札幌市豊平区	全て

2-4： 強化体制等の整備

2-4-1: 日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考

1) 日本代表選手

世界カーリング選手権大会、パシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表選手は日本カーリング選手権大会優勝チームから原則選考される。また、オリンピック、ユニバーシアードなどの日本代表選手は日本代表決定戦優勝チームから原則選考される。各大会の結果および過去の実績を考慮して強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 日本代表監督・指導者（コーチ）、強化スタッフ等

日本代表チームの指導者は、日本選手権大会、日本代表戦決定戦等の結果および過去の実績等を考慮して強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表の指導者として決定する

2-4-2: アンチ・ドーピングに関する取り組み

カーリング競技規則に「カーリング精神」が謳われ、そこに「素晴らしいスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、尊敬に値する行為」がすべてのカーリング関係者に求められている。アンチ・ドーピングについては、毎年

夏季国内合同強化合宿, 夏季国内ジュニア合同強化合宿において研修を実施している。同合宿において、「コンプライアンス・ガバナンスセミナー」を実施し、本協会倫理規程に基づき設置されたコンプライアンス委員会が違法行為や規程に反する行為等の防止に取り組んでいる。強化選手に対して参加を義務づけ、スポーツ・インテグリティ教育を徹底している。また、「日本代表及び強化選手行動規定」が定められており、強化選手や関係スタッフはその自覚や責任を忘れず、行動規定を遵守し規律ある行動に努め、最善を尽くして競技に臨むことを誓約することになっている。

2-4-3: 人材育成・確保

男子強化チームの外国人コーチとして、カナダ人のロバート・アーセル氏を配置している。2020 年度, 2021 年度は JOC 専任コーチを勤める予定。複数の外国人コーチを置く必要があり、検討している。

2026 年北京大会に向けては、ジュニア担当の専任コーチとして小笠原歩氏を配置している。日本人の専任コーチや外国人のコーチをサポートする強化スタッフとしてオリンピックを活用することを検討している。

2-4-4: 強化戦略プラン推進体制

別紙

3. モニタリング及び検証・評価

モニタリング及び 検証・評価の項目	実施時期	実施者	備考
目標とマイルストーン	年 2 回(12 月 5 月)	強化委員長, 副強化委員 長, ジュニア担当専任コーチ	
各事業の進捗状況	年 2 回(9 月, 1 月)	強化委員長, 副強化委員 長, 事務局長	
強化戦略プラン	年 2 回(12 月, 5 月)	強化委員長, 副強化委員 長, ジュニア担当専任コーチ	

4. 別添資料

別添 1) 有望選手及び指導者・スタッフ一覧

別添 2) 2019 年度事業計画

強化戦略プラン

第二部

女子カーリング

バージョン 2.0

2019/06/30

強化責任者： 柳 等

連絡先： 03-5843-0371

E-mail： yanagi@curling.or.jp

強化戦略プラン 第二部（種目又は種別、強化単位）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
2.0	令和元年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

- 軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

1. 現状と目標	4
1-1：現状	4
1-1-1：背景と現状の競技力	4
1-1-2：優位性と課題	4
1-2： 目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	4
1-2-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）	4
1-2-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）	6
2. 戦略方針	7
2-1：競技力強化のための戦略.....	7
2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略.....	7
2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略	7
2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ	8
2-3：強化拠点	8
2-4：強化体制等の整備	8
2-4-1：日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考	8
2-4-2：アンチ・ドーピングに関する取り組み.....	9
2-4-3：人材育成・確保.....	9
2-4-4：強化戦略プラン推進体制	9
3. モニタリング及び検証・評価	9
4. 別添資料	10

1. 現状と目標

1-1: 現状

1-1-1: 背景と現状の競技力

日本女子は、1998年長野大会以来、6大会連続でオリンピックに出場している。2014年ソチ大会で5位入賞、2018年平昌大会で3位入賞し、初の銅メダル獲得となった。世界女子カーリング選手権大会については、2016年大会で2位入賞、銀メダル獲得、2019年大会は4位入賞であった。近年の女子カーリングの成績は、一年を通して国内でオンアイス練習する環境が整い、海外強化合宿でワールドカーリングツアーなどの国際大会に参戦し、国際競技力向上を図ってきた成果といえる。また、カナダ人のジェームズ・リンドコーチの指導により、粘り強く最後まであきらめずに戦うというマインドセットを形成し、アイスリーディングのスキルやコミュニケーションスキル向上によって様々な状況に対応できる能力を習得することができた。

日本女子の世界ランキングは5位である(令和元年6月現在)。上位の国は、順にスウェーデン、韓国、カナダ、スイスである。日本の次がロシア、スコットランド、アメリカとなっている。ワールドカーリングツアーのランキングは、ロコソラーレ9位、北海道銀行15位、中部電力19位、富士急位である。

1-1-2: 優位性と課題

日本カーリングの強みは、国内に公的施設の通年型カーリング専用リンクが四か所(軽井沢町、北見市、青森市、札幌市)にあることである。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

さらに、日本女子の強みとして、国内の有カチームが現在4つ(中部電力、ロコソラーレ、北海道銀行、富士急)存在することがあげられる。国際競技力向上を図るためには海外強化合宿を行い、北米や欧州でのワールドカーリングツアーの大会に参戦する必要がある。これらのチームは海外強化合宿を実施するだけの財源のあるチームである。2022年北京大会まではこれらのチームを重点的に強化する必要がある。

より多くのジュニアと大学強化チームをより多くの海外強化合宿に派遣し、ワールドカーリングツアー大会に参戦させるのが課題である。海外強化合宿を実施するのに限られた期間しかないこと、強化チームをサポートする体制が十分に整備されていないのが問題である。強化チームを指導する人材確保し、選手を育成・強化するシステムを構築することもまた課題となっている。

1-2: 目標(現状可能な目標)とマイルストーン

1-2-1: 2020年東京大会(夏季) / 2022年北京大会(冬季)

	目標(現状可能な目標)
2020年 2022年	優勝・金メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2021	2022年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2021-22 ワールドカーリングツアーランキング 6位以内 1チーム、15位以内 2チーム 2021年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内
2020	2021年世界カーリング選手権大会メダル獲得

	2020-21 ワールドカーリングツアーランキング 7 位以内 1 チーム, 18 位以内 2 チーム 2020 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2019	2020 年世界カーリング選手権大会 4 位以内 2019-20 ワールドカーリングツアーランキング 8 位以内 1 チーム, 20 位以内 2 チーム 2019 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内

上記の目標・マイルトーンを設定した理由や根拠

日本の女子カーリングは、2018 年平昌大会で 3 位入賞（銅メダル獲得）することができた。2022 年北京大会では、それ以上の成績を目指し、優勝・金メダル獲得を目標とする。

近年のオリンピックにおけるメダル獲得国は、直近 2 年の世界選手権大会でメダルを獲得している傾向にある。そこで、2020 年世界選手権大会 4 位以内、2021 年メダル獲得と、2022 年北京大会に向けてステップアップする目標を設定した。

さらに、オリンピック、世界選手権大会のメダル獲得国は、ワールドカーリングツアーランキングの上位チームの国である。ランキング 10 位以内のチームは、高いレベルで安定したパフォーマンスを発揮し、メダルを獲得する可能性が高いことを示している。日本の女子チームが複数上位にランクされるようになると、どのチームが日本代表となっても、オリンピック、世界選手権大会、パシフィックアジアカーリング選手権大会で上位成績を収める可能性が増大する。

1-2-2 : 2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季)

	目標(現状可能な目標)
2024 年 2026 年	優勝・金メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2025	2026 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2025-26 ワールドカーリングツアーランキング 12 位以内 3 チーム 2025 パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2024	2025 年世界女子カーリング選手権大会メダル獲得 2024-25 ワールドカーリングツアーランキング 15 位以内 3 チーム 2024 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2023	2024 年世界女子カーリング選手権大会 4 位以内 2023-24 ワールドカーリングツアーランキング 18 位以内 3 チーム 2023 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2022	2023 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2023 年ユニバーシアード冬季競技大会メダル獲得 2022 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2021	2022 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2021 年世界ジュニアカーリング選手権大会メダル獲得
2020	2021 年世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出 2021 年ユニバーシアード冬季競技大会プレーオフ進出
2019	世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出 世界ジュニア B カーリング選手権大会 3 位以内

上記の目標・マイルストーンを設定した理由や根拠

2026 年大会においても、優勝・金メダル獲得を目標とする。
2022 年北京大会のある 2021 年度までは、次世代のジュニア強化チームを想定した。世界ジュニア選手権大会、ユニバーシアード冬季競技大会でのメダル獲得の経験を積む。それ以降はワールドカーリングツアーに参戦して 2026 年大会に向けて強化を図る。

2. 戦略方針

2-1：競技力強化のための戦略

2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① 海外強化合宿での国際試合経験の積み上げ
- ② 主要国際大会でのストーン、アイスに関する情報収集・分析，強豪国チームの戦略情報収集・分析
- ③ 主要国際大会でのコンディション維持

戦略

国際競技力向上のための強化方針は、国内有力チームを海外強化合宿に派遣して、海外強豪チームとの試合を経験させることである。スウェーデン、韓国、カナダ、スイス、カナダ、ロシア、スコットランドなどの強豪国のチームは、シーズン中にワールドカーリングツアー（WCT）などの国際大会に10～15回出場している。ワールドカーリングツアーで20位以内ランクされるようになると、世界選手権大会やオリンピックでのメダルの可能性が高くなる傾向にある。日本の強化チームもそれと同等数の国際大会、少なくとも10大会に出場し、国際経験を積む必要がある。ワールドカーリングツアーで上位にランクされるメリットは強化の好循環に入れることだ。つまり、グランドスラム大会に招待され出場できるようになり、強豪チームとの対戦も増加するうえ、ツアーポイントも高くなるのである。こうしたチームを国内に複数作ることが目標の一つである。強化チームのワールドカーリングツアーランキングは、ロコソラーレ9位、北海道銀行15位、中部電力19位である（2019年6月30日現在）。

カーリングの競技力の要素には、アイスの読みとストーンのマネジメントがある。選手個人のスキル、チームのパフォーマンスはこれらの要素と深く関係している。世界カーリング連盟 WCF 主催の主要国際大会については、アイスやストーンの情報を日本カーリング協会の強化委員会が管理し、強化チーム間で共有する。また、大会でのデータ収集は強化スタッフがサポートし、チームに提供する。

主要国際大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が必要である。特に世界選手権大会は予選の7日間一日2試合、さらにプレーオフに進むと9日間にもおよぶ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、単に選手の体力の向上だけでは不十分で、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が求められる。

ところで、2022年北京大会までの、日本カーリング選手権大会および日本代表選考の方法をすでに決定した。オリンピックや世界選手権大会などの主要国際大会に安定したパフォーマンスを発揮できるチームを日本代表に選出できるようにした。日本カーリング選手権大会は、世界カーリング選手権大会とパシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表を決定する大会であるので、強化チームやワールドカーリングツアーランキング50位以内の最上位チームが出場できる条件を整備した。さらに、海外の優秀なアイス技術者を大会時に招聘して、主要な国際大会と同等な条件のストーンやアイスを準備することとなった。

2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① ジュニアおよび学生選手の海外強化合宿派遣
- ② ジュニア国内合同強化合宿
- ③ 国内ジュニア大会の創設

戦略

重点強化対象となったジュニア強化選手、大学強化選手を海外強化合宿に派遣し、ワールドジュニアカーリングツアー(WJCT)大会に参戦させる。国内とは異なる環境の大会で、様々なタイプのチームと対戦する機会を増やす。世界の同世代のチームとの試合経験をより多く積ませる。

ジュニア強化選手、大学強化選手を対象とした国内合同強化合宿は従来通り継続して実施する。実戦形式の練習のほか、チームビルディング、アンチ・ドーピング、コンプライアンス・ガバナンス、食事・栄養、心理、コンディショニング、メディアトレーニング等の研修を行う。カナダの元オリンピック代表をコーチとして招聘して、指導を受ける。ジュニア専任コーチが「カーリング精神」に沿ってジュニア強化選手、大学強化選手の指導に当たり、国際大会で活躍できるアスリートに育成することを目指す。

ジュニアチームおよび大学チームのための国内ジュニア大会を創設して、国内で同世代のチーム間での試合機会を増やす。より多くの選手が参加できるように、複数大会を転戦するツアー大会方式を目指す。

2-2： ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

別添 1 に記載

2-3： 強化拠点

1) 強化拠点の必要性と活動方針

通年型カーリング専用リンクはシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できる強化拠点として必要である。国際大会で安定したパフォーマンス発揮するために、基礎練習を反復して基本動作の技術を習得する。

2) 主な活動場所

具体的な活動場所		主に使用するカテゴリー
拠点・施設名	所在地(都道府県・市町村)	
軽井沢アイスパーク	長野県北佐久郡軽井沢町	全て
アドヴィックス常呂カーリングホール	北海道北見市常呂町	全て
みちぎんどリームスタジアム	青森県青森市合浦	全て
どうぎんカーリングスタジアム	北海道札幌市豊平区	全て

2-4： 強化体制等の整備

2-4-1: 日本代表選手及び指導者(コーチ)、強化スタッフの選考

1) 日本代表選手

世界カーリング選手権大会、パシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表選手は日本カーリング選手権大会優勝チームから原則選考される。また、オリンピック、ユニバーシアードなどの日本代表選手は日本代表決定戦優勝チームから原則選考される。各大会の結果および過去の実績を考慮して強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 日本代表監督・指導者(コーチ)、強化スタッフ等

日本代表チームの指導者は、日本選手権大会、日本代表決定戦等の結果および過去の実績等を考慮して強化委員会が推薦した者を理事会で承認して、日本代表の指導者として決定する。

2-4-2: アンチ・ドーピングに関する取り組み

カーリング競技規則に「カーリング精神」が謳われ、そこに「素晴らしいスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、尊敬に値する行為」がすべてのカーリング関係者に求められている。アンチ・ドーピングについては、毎年夏季国内合同強化合宿、夏季国内ジュニア合同強化合宿において研修を実施している。同合宿において、「コンプライアンス・ガバナンスセミナー」を実施し、本協会倫理規程に基づき設置されたコンプライアンス委員会が違法行為や規程に反する行為等の防止に取り組んでいる。強化選手に対して参加を義務づけ、スポーツ・インテグリティ教育を徹底している。また、「日本代表及び強化選手行動規定」が定められており、強化選手や関係スタッフはその自覚や責任を忘れず、行動規定を遵守し規律ある行動に努め、最善を尽くして競技に臨むことを誓約することになっている。

2-4-3: 人材育成・確保

強化チームのコーチとして、現在 JOC 専任コーチでカナダ人のジェームス・リンド氏を配置している。強化チームが複数あるので、複数の外国人コーチを置く必要があり、検討している。

2026 年北京大会に向けては、ジュニア担当の専任コーチとして小笠原歩氏を配置している。日本人の専任コーチや外国人のコーチをサポートする強化スタッフとしてオリンピックを活用することを検討している。

2-4-4: 強化戦略プラン推進体制

別紙

3. モニタリング及び検証・評価

モニタリング及び 検証・評価の項目	実施時期	実施者	備考
目標とマイルストーン	年 2 回(12 月, 5 月)	強化委員長, 副強化委員 長, ジュニア担当専任コーチ	
各事業の進捗状況	年 2 回(9 月, 1 月)	強化委員長, 副強化委員 長, 事務局長	
強化戦略プラン	年 2 回	強化委員長, 副委員長, ジ ュニア担当専任コーチ	

4. 別添資料

別添 1) 有望選手及び指導者・スタッフ一覧

別添 2) 2019 年度事業計画

強化戦略プラン

第二部

ミックスダブルスカーリング

バージョン 2.0

2019/06/30

強化責任者： 柳 等

連絡先： 03-5843-0371

E-mail： yanagi@curling.or.jp

強化戦略プラン 第二部（種目又は種別、強化単位）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
2.0	令和元年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

1. 現状と目標	4
1-1：現状	4
1-1-1：背景と現状の競技力	4
1-1-2：優位性と課題	4
1-2： 目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	4
1-2-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季） エラー! ブックマークが定義されていません。	
1-2-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）	6
2. 戦略方針	7
2-1：競技力強化のための戦略.....	7
2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略.....	7
2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略	7
2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ	7
2-3：強化拠点	7
2-4：強化体制等の整備	8
2-4-1：日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考	8
2-4-2：アンチ・ドーピングに関する取り組み.....	8
2-4-3：人材育成・確保.....	8
2-4-4：強化戦略プラン推進体制	8
3. モニタリング及び検証・評価	9
4. 別添資料	10

1. 現状と目標

1-1: 現状

1-1-1: 背景と現状の競技力

ミックスダブルスカーリングは平昌冬季オリンピックから採用された種目である。残念ながら、日本は平昌冬季オリンピックには出場できなかった。オリンピック出場権の懸かった世界ミックスダブルスカーリング選手権大会での成績は、2016年20位、2017年19位であった。2017年の大会には四人制チームのトップ選手で構成したチームで臨んだ。小笠原歩選手、阿部晋也選手が出場したが、出場権獲得には至らなかった。世界選手権大会で戦うにあたり、十分な準備ができていなかったと考えられた。2018年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会には、2018年平昌冬季オリンピックに出場した藤澤五月選手、山口剛史選手のチームで臨み、過去最高成績の5位入賞を果たした。2019年同大会でも同チームが出場し、再び5位入賞となった。トップ選手個人のパフォーマンスや状況に対応する能力が高いことが示された。世界的にも四人制チームのトップ選手で構成するチームで世界選手権大会に臨む傾向にあり、上位成績を収めている。日本の世界は11位(2019年6月現在)。上位国は、カナダ、スイス、アメリカ、ノルウェー、中国、ロシア、韓国、スウェーデン、フィンランド、チェコである。

1-1-2: 優位性と課題

日本カーリングの強みは、国内に公的施設の通年型カーリング専用リンクが四か所(軽井沢町、北見市、青森市、札幌市)にあることである。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

2022年北京大会に向けては、四人制トップチームの強化選手で構成するミックスダブルス強化チーム(MDハイパフォーマンスチーム)が日本ミックスダブルスカーリング選手権大会に出場できる条件を整備した。MDハイパフォーマンスチームがワールドカーリングツアー大会に参戦するのは日程的に困難であるので、オフシーズンのうちに外国人コーチによる国内合同強化合宿を実施してミックスダブルスに特化した強化を進めること、ミックスダブルスの強化体制(専任コーチ、トレーナー等)を確立することが課題。また、2026年大会に向けての課題は、より多くのMDハイパフォーマンスチームが日本ミックスダブルスカーリング選手権大会に出場できるように条件を整備することである。

1-2: 目標(現状可能な目標)とマイルストーン

	目標(現状可能な目標)
2020年 2022年	メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2021	2022年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2020	2021年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会メダル獲得

2019	2020 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会 4 位以内

上記の目標・マイルトーンを設定した理由や根拠

2022 年北京大会の目標は、メダル獲得とする。
2018 年、2019 年世界選手権大会の成績はいずれも 5 位入賞で、2025 年北京大会ではメダル獲得の可能性が非常に高いところにいる。そこで、2020 年世界選手権大会 4 位以内、2021 年メダル獲得と、2022 年北京大会に向けてステップアップする目標を設定した。

1-2-2 : 2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季)

	目標(現状可能な目標)
2024 年 2026 年	メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2025	2026 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2024	2025 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会メダル獲得
2023	2024 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会メダル獲得
2022	2023 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2021-	2022 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2020	2021 世界ミックスダブルスカーリング選手権メダル獲得
2019	2020 世界ミックスダブルスカーリング選手権 4 位以内

上記の目標・マイルストーンを設定した理由や根拠

2026 年大会の目標は、メダル獲得とする。
オリンピック直近 2 年の世界選手権大会は、オリンピック出場に係る大会となるので、それに見合うマイルストーンを設定した。

2. 戦略方針

2-1：競技力強化のための戦略

2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① MD ハイパフォーマンスチーム
- ② 外国人コーチによる国内合同強化合宿
- ③ 主要国際大会でのコンディション維持

戦略

四人制チームの強化選手で構成される MD ハイパフォーマンスチームが最重要成功要因である。世界的にもこのようなチームで世界選手権大会やオリンピックに臨む傾向にある。2019年大会でメダルを獲得したチームの選手は、四人制チームの世界チャンピオンやオリンピックチャンピオンである。これまでは四人制の日本選手権大会後にその大会の上位チームの選手から選出してチームを構成したが、シーズン前に四人制チームの強化選手同士で組むことで、より長い期間強化できるようにした。

MD ハイパフォーマンスチームがワールドカーリングツアー大会に参戦するのは日的に困難である。オフシーズンのうちにカナダ人コーチによるミックスダブルスに特化した国内合同強化合宿を実施することで、ミックスダブルスの試合に慣れ、特有の戦術をマスターする。

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会は、一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が大切。ミックスダブルスには控えの選手がいないので、二名の選手で一週間以上の日程をこなさなければならない。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、単に選手の体力の向上だけでは不十分で、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が求められる。

2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① MD ハイパフォーマンスチーム
- ② 外国人コーチによる国内合同強化合宿
- ③ 主要国際大会でのコンディション維持

戦略

2-1-1と同じ。

2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

別添1に記載

2-3：強化拠点

1) 強化拠点の必要性和活動方針

通年型カーリング専用リンクはシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できる強化拠点として必要である。国際大会で安定したパフォーマンスを発揮するために、基礎練習を反復して基本動作の技術を習得する。

2) 主な活動場所

具体的な活動場所	主に使用するカテゴリー
----------	-------------

拠点・施設名	所在地(都道府県・市町村)	
軽井沢アイスパーク	長野県北佐久郡軽井沢町	全て
アドヴィックス常呂カーリングホール	北海道北見市常呂町	全て
みちぎんどリームスタジアム	青森県青森市合浦	全て
どうぎんカーリングスタジアム	北海道札幌市豊平区	全て

2-4：強化体制等の整備

2-4-1: 日本代表選手及び指導者(コーチ)、強化スタッフの選考

1) 日本代表選手

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の日本代表選手は日本ミックスダブルスカーリング選手権大会優勝チームから原則選考される。また、オリンピック日本代表選手は日本代表決定戦優勝チームから原則選考される。各大会の結果から強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 日本代表監督・指導者(コーチ)、強化スタッフ等

日本代表チームの指導者は、日本ミックスダブルスカーリング選手権大会、日本代表戦決定戦の結果および過去の実績等を考慮して強化委員会が推薦した者を理事会で承認して、日本代表の指導者として決定する。

2-4-2: アンチ・ドーピングに関する取り組み

カーリング競技規則に「カーリング精神」が謳われ、そこで「素晴らしいスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、尊敬に値する行為」がすべてのカーリング関係者に求められている。アンチ・ドーピングについては、毎年夏季国内合同強化合宿において研修を実施している。同合宿において、「コンプライアンス・ガバナンスセミナー」を実施し、本協会倫理規程に基づき設置されたコンプライアンス委員会が違法行為や規程に反する行為等の防止にも取り組んでいる。強化選手に対して参加を義務づけ、スポーツ・インテグリティ教育を徹底している。また、「日本代表及び強化選手行動規定」が定められており、強化選手や関係スタッフはその自覚や責任を忘れず、行動規定を遵守し規律ある行動に努め、最善を尽くして競技に臨むことを誓約することになっている。

2-4-3: 人材育成・確保

ミックスダブルスの強化スタッフは配置されていない。オリンピックメダリストを軸に外国人コーチを配置することを検討している。2026年北京大会に向けては、日本人の専任コーチや外国人のコーチをサポートする強化スタッフとしてオリンピックを活用することを検討している。

2-4-4: 強化戦略プラン推進体制

別紙

3. モニタリング及び検証・評価

モニタリング及び 検証・評価の項目	実施時期	実施者	備考
目標とマイルストーン	年 2 回(12 月, 5 月)	強化委員長, 副強化委員 長, ジュニア担当専任コーチ	
各事業の進捗状況	年 2 回(9 月, 1 月)	強化委員長, 副強化委員 長, 事務局長	
強化戦略プラン	年 2 回	強化委員長, 副委員長, ジ ュニア担当専任コーチ	

4. 別添資料

別添 1) 有望選手及び指導者・スタッフ一覧

別添 2) 2019 年度事業計画